

第5回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 議事概要

1 日 時 令和7年10月14日(火) 13:00～14:30

2 場 所 県防災危機管理センター3階研修室

3 委員出席者 新田 八朗 廣島 伸一 坪池 宏 大西 ゆかり
黒田 卓 牧田 和樹 松岡 理 伊東 潤一郎
佐伯 真未 品川 祐一郎 白江 日呂雄 杉木 貴文
林 誠一 本江 孝一 松山 朋朗

4 会議の要旨

司会が開会を宣し、知事が挨拶した。

知事挨拶

(知事)

新時代とやまハイスクール構想検討会議をご案内申し上げましたところ、お忙しい中、また、前回開いた頃はまだ猛暑でしたが、今日は冷たい雨が降っております。そのような中ご出席いただき、ありがとうございます。

今回で5回目を数えることになりました。前回は、様々な教育内容を組み合わせた学校の類型や配置の姿について、それぞれのお立場からご意見いただきました。それを受けて8月の総合教育会議で、新時代とやまハイスクール構想の実施方針の素案を取りまとめ、その説明会を富山と高岡で2回開催し、さらにパブリックコメントを付して、多くの県民の皆様からのご意見をいただいたところです。

また、9月の議会でも、この件が大変に大きな論点になりました。議会では、主に今後の進め方、或いは将来の学校数、大規模校の方針、また工業科・職業科などのあり方、偏差値に関わる問題などについて、議論が交わされたところです。

そして本日の第5回会議では、この実施方針の素案について、主な論点ごとにその対応案などについて皆様からご意見を伺えればと思っています。

引き続き「こどもまんなか」の視点で、基本目標である「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」に向けて忌憚のないご意見をいただきますよう、どうかよろしくお願いいたします。

議事事項

○「新時代とやまハイスクール構想」実施方針及び今後の進め方について

資料に基づき事務局から説明した。

(委員)

ただいま事務局からこれまでの素案等に対するご意見、議論等について説明をさせていただきました。本日はこちらの資料2の論点整理について、ご意見をいただき、今後の進

め方等を整理させていただければと考えています。忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(委員)

まず1ページ目の①進め方については、第1期の開校を令和11年度にすることも考えられるということですが、子どもたちの数が急激に減っているのに、基本的には早急に対応していく必要があると考えています。ただ、今回示されたいろいろなご意見などを勘案すると、開校については11年度とすることも考えておられるところには、共感しています。

次の2ページですが、進め方のところで、自民党の方から令和15年度までにとのお話がありました。考え方の整理に「令和15年度以降の更なる生徒減への対応が必要になる」とありますが、現在、令和20年度を目途に考えているこの計画も、令和20年度以降の対応が必要であるという点では、全く同様であると認識しています。

次の3ページの②学校数や施設の活用についての2つ目の考え方の整理、中規模校について複数キャンパス制度の導入などの検討については、この複数キャンパスが何を意味するかわからないので何とも言い難いのですが、中規模校が2つに分かれることが、例えば、小規模校が2つになるとか、中規模校1つと小規模校1つになるということであれば、もともと規模の話をしていいた中で、随分矛盾することになると感じています。ただ、職業科と職業科、普通科と職業科を併設する学校などにおいて、例えば職業科の実習に関する部分で既存の施設を使用するといったことはあり得ると感じました。いずれにしても、複数キャンパス制というよりは、学校の一体感、子どもたちが同じ学校で学ぶことを大切にしていきたいと思います。

続いて③大規模校について、いろいろな意見があって、課題が山積という印象を受けていますが、設置するとしたら、ぜひ新設でお願いしたいと思っています。既存の施設の活用も検討されるということですが、もともとこの総合選択制は、多様な選択をできるように大規模校を思い描いて学校を作ろうとしているので、その趣旨に従えば、例えば、廊下の広さといった学校キャンパスの設計がその学校の教育方針に多大なる影響を与えると思っています。そういう意味では、こういった学校を作るのであれば、ぜひ新設でお願いしたいと思います。付け加えると、もともと2校新築するという話もありましたが、他の学校もかなり校舎が古くなってきていますので、計画的に改修・新築をしていっていただきたいというのが私の強い願いです。耐震のための応急措置として、窓に鉄筋の筋交いが入れた学校が多数あります。学校で学ぶ子どもたちの教育環境としては大変残念な状況だと私は思っています。そうせざるを得なかったとはいえ、今後、こうしたことも考えながら整備をお願いしたいと思っています。

続いて4ページの④職業系についてですが、職業系の専門学科の話が十分されていないというまとめになっています。私も同感で、今後もう少し20年度の姿を検討した上で、この実施方針に盛り込んでいくことには賛成です。こうしたことも考えていくと、冒頭申し上げた、令和10年に第1期の開校が間に合うのかはわかりませんが、職業科については丁寧に進めていただけたらと思います。

(委員)

まず、第1期の開校については、これだけ大きい議論がある中で、方向性や県民の理解もまだまだの状況だと感じられるので、令和11年に開校することを考えるのは、一つの選択肢だと考えています。

続いて③の、共産党さんの申し入れの中では、1学年480人の大規模校について「県民的理解が得られず撤回すること」と書いてありますが、私からすると何をもって県民の理解が得られていないとおっしゃっているのかと思います。検討会議の委員を務めていることもあり、周りの経営者の方々に聞いたところ、こういう大規模校を設置するというのは、幅広い選択肢を今後の生徒にもたらすという意味でプラスではないかという意見が多いです。

また、親という立場からも、480人の大規模校があるというのは、自分の子どもに対して、富山県の教育の中で、一つ強い選択肢を生んでいただけるということで、個人的にも非常に理解できており、ぜひ実施していただきたいと思っています。

その他のところで、自民党PTからの提言や若手教員の方の意見交換から出てきている、「偏差値を過度に重視する教育」や「偏差値は一つの指標である」ということに対しては、考え方の整理(案)に記載されていることがまさに回答だと思っています。偏差値を過度に重視する教育というのは、つまりは生徒側からすると、偏差値でしか選ぶことができなかったという言い方ができるとしています。カリキュラムの内容が一律なので、何で選ぶかという、少しでも周りの人たちの偏差値が良いところに入れば自分も偏差値が高くなるだろうみたいな理由で学校を選んでいると思っており、それを解決する方法はいろいろあると思います。偏差値というものを、5教科の点数や内申点を単純に平たくし、全部の学校で一律に採点するものと再定義するならば、すでに実施している学校もあるとは思いますが、例えば、数学の評価を大きくするなど入試の点数配分を変更することは、偏差値を過度に重視する教育からの脱却につながる一つの方法になると思います。また、今まさに議論しているカリキュラムを様々な高校ごとに設けることは、提供している学習内容が違うという点で、偏差値に頼っただけの選択にならない方向になるので、今回議論している内容は、この自民党PTや若手教員の方の意見にある偏差値からの脱却や偏差値によらない学校選択にまさにつながるため、議論は一致していると考えています。

(委員)

まず①進め方ですが、ほとんどの中学生は12月や1月に自分の志望校を一つに決めています。もっと早い時期に決めている子もいますが、多くはこの時期で、僅かですが2月に迷いながら決める子もいます。そうすると、このような高校側の大事な決定事項が、12月や1月、2月に新聞等で発表されると、子どもたちに大変な不安や迷いなどの影響を強く与えることとなります。またこの時期は、中学校では子どもたちが一生懸命志望校を目指して勉強に集中できるように環境を整えますし、1年生や2年生は、3年生のためにということで一生懸命応援したり、静かに勉強できるように協力したりしており、できればそうした情報がその時期に出ない方がよいと私は思っています。

次に2ページにある「最終形となる新設校等の姿を、具体的かつ明確に」ということですが、これも同じで、これから出る情報が完全な決定事項として新聞やマスコミ等に出る

のは問題ないと思いますが、世の中の事情により変わることもあり得るため、あまり先のことを早めに出されると、中学生としては、今受けようかなと思った学校が将来どうなるのかと不安がずっと続くことになります。早い段階で具体性のあるものが出るのは、心の準備としていいだろうという考え方もあるかもしれませんが、中学生の気持ちを考えると本当に決まってからでよいと思っています。

そして、3 ページ目の大規模校については、1 番最後に書いてあるように若手教員との意見交換で、「大規模校がワクワクするもの」という点に大賛成です。せっかく大規模校を設置するので、新築という部分もそうかもしれませんが、いろいろな部分でワクワクするような、子どもたちが行きたいなと思える形にしていただければと思っています。

4 ページ目の職業系のことについては、考え方の整理の方にあるように、その将来像などを関係者の意見を聞きながら検討するのは大賛成です。関係者というのは、例えばその分野の企業の方が挙げられると思います。私は農業高校や商業高校、工業高校が企業や地域と協力していけば、その職業の従事者だけではなく、その職業のリーダーとなる存在を育てていける余地がある気がします。自民党 P Tの方にもあるように、工業高校から理工系大学を目指すような、そしてリーダーとなったり、富山県に帰ってくる生徒を育てられるのではないかと思います。また、農業関係も同じようなことが言えると思います。

そして5 ページのその他に「地域共創 H S（小規模校）には魅力を感じられない。魅力化が必要」とありますが、考え方の整理（案）に、全ての学校で魅力創出に向けた議論を進めるとあるように、とにかく全ての高校でそういう努力をして、それを是非とも中学校や中学生の保護者の方に発信していただきたい。そうすれば、中学校や生徒、保護者側からもいろいろな意見を出していけるのではないかと思います。

（委員）

多方面の方々からいただいたご意見を拝読しましたが、それぞれのお立場に基づいた非常に貴重で一理あるご意見だと思います。こういったご意見を慎重に検討した上で、最後は、こどもファースト、こどもまんなか、高校を選択する中学生や実際にそこで学ぶ高校生を最重要視した判断を行っていく必要があると改めて思いました。その上で、できるだけ当初の方針通りに進めるべきと改めて思っています。限られた予算の中で、急速に進む少子化への対応や生徒や保護者の方からの要望がある幅広い選択肢のある魅力的な学校づくり、教員の皆さんの働き方改革など様々な観点を総合して作られた実施方針だったので、社会環境や少子化の状況等がどんどん変わっていくので議論は必要だと思いますが、先ほどの職業科の件や時期の問題については、ある程度柔軟にアップデートしながら、しっかりとスケジュールを立てて何某かの結論をしっかりと出して進めていくことが必要だと思います。

（委員）

論点①の構想全体や第1期校の「進め方」について、進路選択の不安を解消していただきたいということを一番にお願いしたいと思います。子どもにとっても保護者にとっても定まらないことが最も不安な要素になるので、自分の進路に当てはまるのか当てはまらないのかが、一番の関心事項になると思います。それを少しでも早く知ることができるよう

に、スケジュールの確定、周知をお願いしたいと思っています。

こちらの案に出ていた開校を令和 11 年度とするということも、いろいろな方の不安を払拭するという意味では良いのではないかと考えています。ただ、今は時代の流れがとても速いので、全体的にスピードアップしていくことも必要になってくると思っています。

論点②の将来の「学校数や施設の活用」については、PTAでもよく話題になりますが、少子化のため学校数の削減は避けられないと理解しています。その中で、県全体のバランスを考えながら学校を配置していただくことは、是非お願いしたいと思っています。保護者の中で一番心配が大きいのは、通学のことだと思います。大規模校など、子どもが自分で目標を見つけたのに、行きたいと思った学校がすごく遠くて行かせられないということがないように、経済的な不安や負担をなくす助成策や公共交通網との連携策を計画段階から少しずつ進めて、開校段階では既にこういった方法がありますよと明示していただけたらありがたいと思っています。

また大規模校の必要性や整備方法についてですが、多様な選択肢のある学校はこれからの時代に必要だと思っています。まず、小規模校の魅力を強めていくことも大前提ですが、子どもたちはスマホの普及で、保護者が考えている以上に沢山の情報に接しています。その中で、子どもたちが自分にとって正しい情報は何か、自分の人生にとって必要なことは何かということを取捨選択していくことは大事であると同時に、非常に難しいことだと考えています。高校生の大事な時期を保護者として導いていくことはもちろんですが、学校の信頼できる先生と共に考えて一緒に道を見つけていく過程やその時間を持てることがとても価値があり、子どもたちの人格形成に繋がっていくと期待しています。

工業科や商業科などについては、富山県にはすごく良い学校があるので、その良さを十分に引き継いでいっていただけることをお願いしたいです。それに加え、世の中がどんどん変化しているので、新しいことにも柔軟に対応できるようにしてほしいと思います。保護者の中にも工業系や農業など職業系の学校のOBで、今起業されている方など、本当に熱い思いを持っている卒業生の方が沢山おられるので、是非、そういった多様な意見を取り入れながら進めていくことをお願いしたいと思っています。

(委員)

例えば、令和 10 年、15 年、20 年と 3 回の再編がある中で、今の高校生が令和 15 年の再編のことを見て、自分の進路をどうしようと考えることが本当にあるのだろうかと思います。また、令和 20 年の再編がこうだから、ここの高校に行きたいと考えることがあるのか、自分だったらどうしているか考えてみたのですが、そのようなことを高校生は見えていないと思います。中学生ではどうかと考えた時に、「こどもまんなか」という話を会議の中でされていますが、果たしてこうしたことをどう考えていけばよいか疑問に感じており、今後の進め方の中で考えていかなければいけないことだと思います。

皆さんの意見を聞いている中で、何をしたいかで子どもが進路を決められるようにしてあげたいということがとても大事なことだと思っています。最初の学校で未来探求を 4 つと、グローバルを 1 つ作るということで、総合教育会議にもかけられ、その方向性でいくことになっていると思いますが、具体的にどんな高校をどんな風に作っていくかということはこの会議で話をする方が、絶対的に大事なのかなと思っています。大規模校の話は、

何回も会議にかけており、いろんな選択肢があるからこれは結構いい学校だとマスコミの皆さんや新聞などにもたくさん情報が出ているため、子どもたちも多少なりともそういう学校ができることを認識していると思います。ただ、それが令和 20 年度頃だと 13 年先なので、今まだ言葉を覚えたか覚えてない子どもたちが初めて対象になることを我々は話していることになります。そうではなく、例えば、今の中学生が知りたいのは、未来探求とはどういう学校で何ができるのかということだと思います。短期的なものと長期のビジョンを見ることは大事なのですが、短期と長期のことを考える中でそのように感じています。

また、職業系専門学科について、例えば、自民党 P T の方からの提言にもあったように、理工系大学を目指すテクノロジストを育成するような高校を作れば、もっと工業系の子どもたちが増えていくのではないかと思います。上級学校に進学するためにどのような取り組みがあるのだろうかと思うので、そういったことを是非、職業系の高校の再編で考えていただきたいと感じました。

(委員)

進め方については、令和 11 年度開校というのは、議論の進度を見て判断することで良いと思います。一方で、計画の 5 年前倒しのご意見がありましたが、5 年間というのは、かなり見える景色が違うと思います。現時点で、生徒数が読める最も長期的な予想が立つという点で、令和 20 年度で一本化するべきだと思います。

2 点目です。学校数や施設の活用については、中規模校に限らず、I C T、ネットワークを活用した遠隔授業といった研究を進めて欲しいと思います。

3 点目です。「地域共創ハイスクール」や「各学校のこれまでの実績」というキーワードが出てきました。私自身すべての学校の実績等がわかっていないので、知りたいと思います。

また、こうした情報が中高で共有されることも大事かと思います。参考資料 7 に、「中高連携の必要性が強く感じられた」とあります。実際、中学校での進路指導がどのように行われており、結局それが偏差値を基にしているのであれば、高校だけの問題ではなく、中高連携すべきではないかと思いました。

同じように、各校の実績を知っていただき、保護者や県民も再編と一緒に考える雰囲気を作ることも大事かと思います。さらに「自分の母校だから」「昔はこうだった」という物差しで計らないといった取り組みも必要だと感じました。

(委員)

たくさんの意見を聞いていろいろ考えることができました。

これまで数合わせの議論だったということをよく言われますが、私は決してそのようなことはなかったと思っています。今回もそうですが、これまでの再編で一番大事にしてきたのが、これからの子どもたちにどのような力や資質能力を付けていかないといけないのかという議論でした。ただ、今回は社会が大きく変わってきていることや急激な人口減となる状況にあります。今、文科省では次期学習指導要領の改訂の作業が急ピッチで進められており、以前は 1 年半がかりでやってきたことを、現在は半年で行わなければならないそうです。それだけ教育の変化が激しく、じっとしていると後退してしまう時代を迎えて

いるからこそ、子どもたちに求められる資質能力も大きく変わってくるだろうと思います。

私は、教育改革の根っこには大人の意識改革が大きいと思っています。我々が学んできた高校時代とこれから生きていく子どもたちの時代は大きく異なっているはずで、以前はこうだったからという論調は、改めていかなければいけないと思っています。

実施方針についてですが、一番やってはいけないのは今の中学生に影響を与えることです。子どもたちを惑わせるような形の提案や提言はよくないと思います。一方で、のんびりしてはいけないのも間違いはないでしょう。先ほど事務局から、この実施方針は羅針盤だと説明がありました。できるだけ早く、この実施方針は固めるべきだと思います。例えば、年明けには実施方針を固めて、その後早めに第1期の再編の議論に向かい、早めに中学生に知らせることが非常に重要なことだと思っています。急激な時代ですから、実施方針に小さな変更が必要なきが来るかもしれませんが、一番根っこにあるものなので、それが固まれば、ぶれずに一致して進んでいくのが大事だと思います。

2つ目は、キャンパス制についてですが、今までこの会議でキャンパス制のことを議論したことはなかったと思います。どういった理由で出てきたのか気になっているところですが、富山県もこれまで分校などいろんな取組みをしています。他県でキャンパス制をとっている県はいくつかありますが、その中身も様々です。私が知る限り、いろんなやり方があります。それは、地理的な要因や教育の要因が県によってかなり異なるからです。他県のキャンパス制のやり方がいから取り入れたらうまくいくかという決してそうではありません。そういう提案が新たに出てきたのであれば、子どもにとってキャンパス制の何がよくて何がよくないのか、富山県にはどうなのかということをしつかり議論する必要があります。

3つ目は、今後の進め方に関わるのかもしれませんが、よく「こどもまんなか」と言われます。子どものためと見えますが、私は一番大事にしないといけないのは、冒頭に言ったように、これからを背負って立つ子どもにどのような力を付けて送り出すか。これまでとは違う資質能力が必要なはずで、それを高校段階でどう準備するか。これが「こどもまんなか」の一番大事なところだと思っています。

過去2回の再編よりも、今回はかなり丁寧に事務局は議論されたと私は感じています。いろんなところへ出て行き、いろんな話を聞き、まとめて整理されてきたことは、とてもありがたかったと思っています。これから細かい各論に入れば入るほど、いろんな意見が出てきますが、一番教育のことをわかっていらっしゃるのは、もちろん学校現場の方々ですが、教育委員会の方々です。教育委員会の方々も国の状況も我々以上に詳しく掴んでいらっしゃるでしょうし、様々な意見も汲んだ上で、今回の議論の取りまとめをしていらっしゃると思います。現在、県立高校改革推進課が事務局として取りまとめているですが、高校改革は県立高校だけではなく多くに影響します。教育企画課や県立高校課、小中学校課、生涯学習・文化財課、特別支援教育課の全てに関わることなので、私は教育委員会がリードし、改革を推進して欲しいと思っていますし、教育委員会が一体となって全員で考えることが大事だと思っています。その中でもう一つ大事な視点は、形や器を作ってもそれはスタートであり、新しい学校はそこから始まるということを私は大事にして欲しいと思っています。

また、現場で生徒に向かう教員の意識もすごく大事にして欲しいと思います。県立高校

はいろんな学校がいくつもあります。私は県立高校は一つの大きな学校というイメージを持っています。非常に熱心な先生方もたくさんいます。これらが教育委員会と一体となってまとめれば、ものすごい力になると思います。ぜひ進めていただければと思います。

(委員)

先ほど出た「こどもまんなか」というキーワードに関してですが、今回の議論では、生徒が行きたい、学びたい、生徒に選ばれる学校という生徒の視点で考えるのがいいと思っています。現在、高校無償化など社会が変化しています。特に気になるところとしては、現時点でも高校生の約1割弱が広域通信制の高校に通っています。この後間違いなく増えていくと考えたときに、広域通信制の学校で学びたいという子どももいる一方で、たくさんの生徒と一緒に学校で学びたいという子どももいると思うので、特にそういう子どもたちに選ばれる、もしくは行きたいと思う魅力のある高校をいかに考えるかが大事だと思います。

4つの論点が挙がっていましたが、いろんな意見の中に、計画発表のタイミングの話がありました。タイミングももちろんそうですが、子どもや保護者にとっては、学校の統廃合に伴い、学校が募集停止になる段階でどういうことが起こるのかがわからないと思うので、丁寧に説明しておく必要があると思いました。

ある程度わかっている人が議論をして計画を考えているので、その辺りはどうしても抜けがちなのですが、いろんな意見を見ていると、結構誤解があったり、あまり理解されていなかったりしていると思うところもあるので、説明が不足しているのではないかと思います。

例えば職業科の話では、コース制は困るという意見が出ていましたが、コース制と限定して書いてあるところはないと思います。

また職業系の専門高校に関しては、「工業をメインに」となっていますが、そこに例えば商業科などが併設される可能性もあります。ただ大事なことは、これまでのように工業は工業だけ、商業は商業だけではなく、商業と工業が一緒になった〇〇商工といった学校も全国にはあるので、どういった効果を出していくのかをしっかりと考え、提案の中に具体的に考えられることを出していくことも大事だと思います。

大規模校に関しても同じです。10クラス規模の高校に通っていた方もいらっしゃると思いますが、結構大きな学校となると、そうした10クラスの高校をイメージされるのではないかと思います。例えば、伊奈学園総合高校のやり方では、4クラスずつハウスという形でまとめて、中規模校が6つ集まって同じ校舎の中で学ぶという形態を取っています。一体となることもあればバラバラに動くこともあり、大規模校と言いながらも、何でもかんでも大規模ではなく、中規模、小規模で考え、いろんなパターンで組み合わせられていることを示すことで、いろいろ不安に思われていたり誤解されたりしていることが解けていくのではないかと思います。

既存施設の活用の話については、既存施設と言っても校舎だけではなく体育館やグラウンドもあります。今独自に学校だけで使うというのはあまりにも効率も悪いので、県で有する大きなグラウンドや体育館もうまく兼用できるようにすることも考えていけるといいと思いました。

サテライト方式については、本当に行うのかという疑問があります。サテライト方式というよりも、例えば中規模校の運用の仕方として、自校で開講していない科目を遠隔を使って履修することを可能にすることが考えられると思います。きちんと規則などを見て申し上げているわけではありませんが、例えば午前中は対面でのカリキュラムで、午後からは自校で開講されてない科目を遠隔で受講し、単位として認められるといった運用ができれば、それぞれの学校の特色や子どもたちの学びたいところに応えられる対応もできるのではないかと思います。

今後、リアルタイムでの遠隔だけではなく、いわゆるオンデマンド型みたいなものも使えるようになっていくと思うので、そういったものもうまく使っていけば教科に関する学びの保証という点で、いろんなアイディアがあると思いました。

現在のものをある程度早目に固めて、具体的なイメージをもっと持ってもらえるようにしていけるといいと思いました。

(委員)

論点整理についての意見ということで、パブリックコメントや意見交換会、議会、高校の若手教員の先生方の意見交換会など、本当に幅広くいろんな場を設け、様々な方々から意見を吸い上げ、その意見に対しての考え方の整理（案）を事務局が作成されており、一つ一つ丁寧に対応していただけているなど感じています。

この案についてはあまり異論はなく、実施方針に反映されることになったということについては賛成です。

実施方針と第〇期設置方針についての考え方ですが、実施方針の性質と第１期設置方針というのは別物であり、実施方針についてはスピード感を持って早めに決めた方がよいと私も思っています。第１期設置方針については慎重な議論が必要だと思いますが、時代や社会情勢の展開も早いので、羅針盤となる実施方針については、いろんな立場の方々にもご理解をいただいて、早く決めた方がよいと感じました。

ただ、特に第１期はものすごく大事だと思っており、開校していく学校像やその中の教育内容を類型ごとにわかりやすく明確化し、その魅力を発信していくことが大事になってくると思うので、早くこの議論に取りかかるのがよいと思います。特に未来探求ハイスクールは第１期に４校開校するので、これはとても大事になってくると思います。大きな魅力がある学校だということを皆さんがイメージできるように作り上げていくことが大事だと思います。

私自身は「こどもまんなか」というのは、子どもの権利を大人と区別することなく認めてあげること、主体者としての権利を認めてあげることだと思っています。子どもに偏りのない十分な情報を発信するとともに、わかりにくいところはしっかり噛み砕いて説明し、イメージできるようにしてあげることが大事だと思っており、その上で選ぶことができる権利を認めることが大事だと思っています。

様々な方からの意見収集の中で、特に私は、高校の若手教員教師塾「これからの高校教育を考える会」の報告書が素晴らしいと思って拝見していたのですが、先生方が何回も勉強会や情報交換、中学校教員との意見交換などをして、本当に幅広く熱心に活動しておられると感じています。進路指導や進路相談を受ける中学校の先生方も同じようにこれから

の高校ってこんなふうな高校がよいのではないかというような会を開いてもらい、その意見を私達が聞くことも必要ではないかと思いました。

(委員)

様々な方の意見や委員の方々の意見について、皆さんのおっしゃる通りだと思っていますが、現実としては、この中の誰一人として15年後、20年後、どうなるかを予言できません。これまでの教育は時代とともに変わってきており、我々が高校に行っていた頃の高校生と今の高校生とは違います。また、国の仕組みも変わってきています。私たちの時は、まだ中学卒で就職する人たちもいました。しかし、現在は高校の授業料無償化など政治によるサポートのお陰で、教育環境がどんどん変わってきています。教育基本法や学校教育法は変わっていませんが、教育の中身が変わってきているのです。だから15年後のことは、誰も予想できないのです。

創造性というのは既存知識の組み替えだと定義された方がいますが、私はその通りだと思っています。今の高校再編を含めた教育改革について、この実施方針に書いてあることは、全部先例があるわけです。前回、デュアルシステムはないと言いましたが、神奈川県に日本型デュアルシステムの工業高校ができたので、今ここに書いてあることはすべて全国どこかに先例があります。ということで、これを私は既存知識と読み替えていいと思っています。それらを時代の変遷の中で、皆で議論しながら組み替えていき、今この実施方針を出したわけで、現段階でその組み替え作業はベストなものになっていると個人的には思います。ただ、これを金科玉条のように10年後、15年後になっても変えてはいけないということではいけないと思いますし、時の為政者が必ず変えるだろうと思います。それはコロナのときにいろんなことが変わったのと同じように、環境が全然違ってくれば変わらざるを得ないからです。そういう意味では、この基本方針は羅針盤としての役割を現段階で十分果たしていると思います。

(委員)

偏差値教育のことが少し話題になっていましたので、それについて触れたいと思います。偏差値教育が特に言われたのは、昭和の末から平成にかけての生徒急増期です。当時の高校のカリキュラムは、どの学校も普通科は同じだったので、中学生が学校選択するのには学力の基準でしか選べなかった事情があったと思います。

それに対して、文科省は選択肢の拡大、多様な学校を作ってきました。例えばコース制や総合学科を入れたのですが、現在は少子化によって多様なカリキュラムの運営が厳しくなっています。今後、選択肢を拡大、維持していくためには、大規模校を作っていくしか他に手はないと私は感じています。それとともに、多様なカリキュラムを選択肢の指標の一つにすることが大事であり、入試なので学力的な部分も基準としては出てくると思いますが、一つの基準ではなくて多様な基準によって子どもたちが好きな学校を選べるという体制を作っていく必要があると思いますし、そのことが今の議論の根底にあると思います。

今までの入試が生徒急増期において多くの生徒を効率的に一括選抜する方法であったとすれば、新時代ハイスクールや少子化は、今までとは違うきめ細かい選抜のあり方を考え

るチャンスになると思っています。

いずれにしても、どんなに器をしっかりしても、ベースの考え方がしっかりしていないと実現しませんので、新時代ハイスクールをすることによって偏差値教育が助長されるのではなく、むしろ打開策があるものと考えて進むべきだと考えています。

(委員)

ご熱心に議論いただきまして誠にありがとうございました。いただきましたご意見を踏まえ、今後の進め方について私どもで改めて整理をさせていただき、足りない部分は補う、ただスピード感を持ってやっていきたいと思えます。こちらの方で整理して総合教育会議等々でも改めて議論させていただければと思えます。

最後に一言、知事からお願いいたします。

(知事)

本日もご熱心なご議論ありがとうございました。

我々の議論の出発点は、新時代とやまハイスクール構想基本方針にあります。常にこれに立ち返りながら進めていく必要があろうと思えます。基本目標である「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」の実現を目指していくことが基本方針であり、人口減少や少子化の中ですが、生徒に多様な選択肢を提供できるよう特色ある新時代ハイスクールを県内にバランスよく配置していくこと。ここについては、どの学校を残すとか、なくすということではなく、新しい学校を構築していくという考え方で進めていくということです。

そして、令和20年度までに目指す姿を描き、その5年前或いは10年前の配置の姿をバックキャストで描き、時代状況も踏まえた上で、各段階で必要となる仕組みを推進すること。この3つがこの構想の根幹となる部分だと考えており、この辺りはぶれずに進めていきたいと考えています。

多くの意見をお聞きしてきました。丁寧に丁寧にというのは、今回のこの教育に関する議論の合言葉のようなものです。ただお聞きするだけでは拡散するだけなので、折に触れて中間取りまとめとしてご意見を整理して、節目節目で方向性を出していくことも同じように大切なことだと考えています。

そのため、今後、職業系専門学科のあり方などの必要な検討を行った上で、今日の論点にもありますが、年明け頃までには実施方針を取りまとめたいと考えます。となりますと、第1期校の設置時期は令和11年度とする方向になると考えています。

今後の進め方については、本日のご意見をさらにまた整理した上で、次回の総合教育会議で議論し、決定していきたいと考えます。事務局はそのような方向で進めていただければと思えます。

5 閉会

14時30分、司会が閉会を宣した。